

八、重要語句の索引は、巻末に掲げた。
 九、写真・表・図の資料番号は、編ごとの章とその順番を示している。
 一〇、町誌編さん委員会委員及び専門委員・執筆協力者は、巻末に記載している。

目次

□ 絵	
第二節 面積	7
中山町の面積の概要	地目別土地面積
第三節 人口	10
中山町誌監修	奥田和久
監修を終えて	
概観	人口動態
本誌を読まれる人のために (凡例)	
第一編 自然環境	
第二章 地勢・地形	23
第一節 地形	23
中山町の地形の概要	地形分類
第一節 位置・面積・人口	1
第二章 水	28
第一節 位置	1
第二節 水系	28
数理的的位置	交通的位置
都市機能的的位置	
水系の概要	中山町の河川
中山川の水質	

第二章 気象・災害……………30

第一節 愛媛の気候の概要……………30

第二節 中山町の気象……………32

概要 気候要素別の特徴

第三節 自然災害……………39

自然災害の概要 中山町の災害の概要 自然

災害の状況

第四章 地質……………44

第一節 地質の概要……………44

日本列島の地質構造区分 愛媛の地質の概要

第二節 中山町の地質……………47

中山町の地質の概要

第三節 鉱泉……………54

鉱泉の概要 泉源開発

第四節 地下資源……………57

愛媛県の地下資源の概要 中山町の地下資源

第五節 土壌……………60

中山町の土壌分布

第五章 生物……………62

第一節 植物……………62

中山町の植物の概要 社叢に見られる植物

中山町の巨木・名木

第二節 動物……………75

中山町の概要 中山町のホタル

第二編 歴史

第一章 原 始……………79

第一節 日本列島の誕生……………79

旧石器時代区分 礫器・剝片石器伝統 ナイ

フ形石器伝統 細石刃器伝統 石槍伝統

第二節 縄文時代……………83

土器の出現 縄文早期に瀬戸内海出現 縄文

前期 縄文中期 縄文後期

第三節 弥生時代……………88

米と金属器の世紀 前期の土器 弥生中期の

第四節 古墳時代……………98

古墳時代の文化 古墳の種類 前期古墳 コ

メの増産 さまざまな工夫 動植物遺体 南

予地方の前期時代 中期古墳の分布 鉄器と

木器の普及 中期集落 後期古墳 古墳群の

発生 点在する終末期の古墳 三島神社古墳

古墓塚

第二章 古代・中世……………111

第一節 古代の郷土……………111

第二節 一本鳥居と合田氏……………113

二本の石柱 河野氏の時代 永木の周辺 合田貞遠 松前城と由並之城

第三節 伊福城と垣生城……………124

中世城郭 伊福城 垣生城 出淵氏と城郭 比叡山で戦う仙波盛増 観応の擾乱と仙波又太郎 大野氏の侵入 河野家の家臣

第四節 熊野信仰……………137

熊野三山 御師・先達・檀那

第三章 近世……………143

第一節 激しく交代する領主……………143

四国征伐後の喜多郡・浮穴郡 小早川隆景

第四章 近代……………196

概要……………196

福島正則・粟野秀用・加藤嘉明・蒲生忠知

戸田勝隆・池田高祐・藤堂高虎・脇坂安治

第二節 近世村落の形成……………148

検地と村切り 郷村の運営 郷村の負担

第三節 村・町のくらし……………174

幕府・藩の統制 五人組 宗門改 農間余業 (農間稼) 相互扶助 在郷町

第四節 交通……………187

大洲道と金毘羅街道 伊予を通過した巡見使 本陣・伝馬

第一節 明治時代……………197

行政の変革 廃藩置県 自治制の発達 中山

町の編成推移

第二節 明治時代の選挙と中山町……………206

郡会議員選挙と中山町 県会議員選挙と中山町

町 国会議員選挙と中山町

第三節 明治時代の戦争と中山町……………212

明治初期の兵制 日清戦争と中山町 日露戦争と中山町

争と中山町

第四節 大正・昭和前期……………216

行政の変革 郷土行政区画機構の変遷 第二次世界大戦と郷土 公職追放

第五節 大正以後の選挙と中山町……………225

郡会議員選挙と中山町 県議会議員選挙と中山町

山町 国会議員選挙と中山町

第六節 大正以後の戦争と中山町……………228

第一次世界大戦と中山村 満州事変と日中戦争と中山町 太平洋戦争と中山町 終戦その後

第五章 現代……………233

概要……………233

第一節 昭和二〇〜三〇年の主な動き……………235

第二節 昭和三〇〜四〇年頃まで……………239

第三節 昭和四〇年より現在まで……………242

第四節 町民の将来志向について……………249

第五節 回顧……………252

第三節 中山町の変遷……………275

第三編 行 財 政

第一章 町村合併と行政……………255

中山町制の実施 廣田村大字栗田の編入 平岡区の境界変更―伊予市へ編入

第四節 長期総合計画……………288

第一節 幻の分離合併……………255

第五節 土地開発公社……………289

上灘町字大寄の分離 立川村の境界変更 南

第六節 中山町の現況……………290

山崎村と佐礼谷村の合併 中山村と出湖村の

第七節 記念行事・表彰……………295

合併

合併一〇周年記念行事 合併二〇周年記念行事

第二節 中山町の誕生……………262

事 新町発足三〇周年記念行事

町村合併促進審議会設置 中山町及び佐礼谷

第二章 行政機構……………301

村合併促進協議会の経過

第一節 行政機関・行政組織……………301

第二節 町議会……………306

第二節 新生中山町の財政……………342

町議会の機構 議会の傍聴

一般会計年度別決算状況 特別会計年度別決

第三節 各種委員会……………311

算状況

教育委員会 選挙管理委員会 監査委員 農

第三節 現在の中山町の財政……………348

業委員会 固定資産評価審査委員会 公平委

第四章 社会福祉……………354

員会

第一節 戦前までの社会福祉……………354

第四節 町づくりの歩み……………314

明治時代の社会福祉 大正時代の社会福祉

まちづくりキャッチフレーズの告示 国土調

昭和前期の社会福祉

査(地籍調査)の実施 行政改革

第二節 戦後の社会福祉……………364

第三章 財 政……………329

社会福祉協議会 生活保護と民生委員 児

第一節 財政の変遷……………329

童・母子福祉 老人福祉 身体障害者福祉

税制と財政 旧村の財政

国民年金 地域改善事業 交通災害共済 町

第五章 保健衛生……………399

第一節 衛生行政……………399

伝染病 医療制度・医療 旧町村の国民健康

保険 旧町村の環境衛生

第二節 中山町の保健衛生……………409

施設の整備拡充 保健活動 疾病

第三節 国民健康保険……………431

第四節 環境衛生……………433

簡易水道 ごみ処理施設 し尿処理施設 下

水道

第六章 土木建設……………439

第一節 道路整備……………439

一般国道五六号 四国縦貫自動車道 主要地

方道と一般県道 町道及び農林道

第二節 中山町の土木事業とその現況……………455

土木事業の総括 治山事業 地域改善対策事

業 土地基盤整備事業

第七章 治安・警備……………464

第一節 警察行政の沿革と駐在所・派出所等

の変遷……………464

第二節 犯罪・交通事故……………470

第三節 消防……………474

第四節 常備消防……………487

第八章 兵 事……………493

第一節 徴兵検査……………493

第二節 日清・日露の戦争と郷土……………497

第三節 第一次世界大戦と郷土……………500

第四節 シベリア出兵と郷土……………501

第五節 召 集（日中戦争と郷土）……………502

第六節 太平洋戦争と郷土……………507

第七節 在郷軍人会・兵事会・銃後奉公会……………512

第八節 戦（病）死者と町村葬……………516

第九節 戦争犠牲者の援護……………524

第九章 選 挙……………527

第一節 選挙制度の変遷……………527

第二節 選挙の概要……………529

町村議会議員・町村長選挙 県議会議員・県

知事選挙 衆議院・参議院議員選挙 選挙管

理委員会

第〇章 広 報……………544

第一節 広報活動の沿革……………544

第二節 広報活動の状況……………545

第二章 官公署・諸施設……………550

第三章 広域行政……………556

第一節 松山地区広域市町村圏等の事業……………556

第二節 常備消防と火葬場……………558

第三節 伝染病院・し尿及びごみ処理……………559

第四節 ファックス情報サービス事業……………561

第四編 産業・経済

第一章 農 業……………563

第一節 明治期までの農業……………563

江戸時代の農業 維新後の農業 地租改正
農業の近代化

第二節 大正期から昭和戦前までの農業……………569

救農土木 土地改良事業の胎動

第三節 戦中戦後の農業……………572

供出制度 農業調整委員会設置 農地改革と
その前後 土地改良区の設立

第四節 農業基本法施行後の農業と振興対策……………580

制定の背景 農業構造の実態 農業経営の実
態 基本計画 農業経営基盤強化の方向 農
業委員会の設置 中山町営農会議の設立 新
農山漁村建設総合対策事業の実施 農業構造
改善事業の実施 農業青年実践活動に伴う青
年建設班の設置 農村振興農林漁業対策事業

第五節 農業経営の推移と主要農産物……………619

稲作栽培と技術開発・機械の進歩 名産「中

山栗」の歩み みかん キウイフルーツ そ
の他の果樹 野菜 葉たばこ 花卉 畜産

麦作 養蚕 雑穀 その他

生産物 林業構造改善事業 松くい虫被害対
策 林道 町有林 木炭 特用林産物 製材
業 森林組合 優良樹育種研究会

第六節 農業協同組合……………641

旧中山町 旧佐札谷村 広田村農協との合併

第三章 商工業と鉱業……………702

第二章 林 業……………655

第一節 商 業……………704

第一節 明治以前の林業……………655

第二節 工 業……………708

林業の源 大洲藩の林政

家内工業 工業

第二節 明治以降の林業……………657

第三節 金 融……………717

第三節 現代の林業……………664

頼母子講 中山銀行 伊予銀行 伊予信用金
庫

林業の概要 林野面積と土地利用 保有山林
規模別林家数 森林資源の状況 造林 林業

第四節 商工会……………720

第五節 鋳 業……………722

銅と硫化鉄鋳 マンガン鋳 陶石

第六節 鋳石搬出……………732

第七節 産業の推移……………733

第四章 交通・運輸・通信・電気・

鉄道……………737

第一節 交通・運輸……………737

古代から近世までの交通・運輸 近代の交

通・運輸

第二節 通 信……………754

郵便 電信・電話・報道

第三節 電 気……………773

子の情誼

第四節 鉄 道―内山線開通―……………774

第五章 観 光……………796

第一節 観光資源の現状……………796

第二節 中山町観光協会の設立と現状……………799

第五編 教育・宗教

第一章 教育の概要……………803

第一節 幕末・明治維新の教育……………803

第二節 寺子屋教育……………804

寺子屋 寺子屋の教科目と教授 寺子屋の訓

育 寺子屋の行事 寺子屋における師匠と寺

第三節 明治初期の学校……………808

学制の制定 明治初期の就学状況 進級試験

制度 小学校規則・生徒心得

第四節 近代教育の創始……………812

小学校教則と小学校簡易科教則 簡易・尋

常・高等小学校の設置区域 教育勅語 明治

天皇・皇后の御真影

第五節 小学校制度の確立……………816

学級編成に関する規則 学齡児童就学規則

小学校数と位置 組合立・町村立高等小学校

の設置

第六節 明治三〇年代の教育……………819

明治三年の小学校令 小学校の教科 義務

教育への就学奨励 学事集会・教務研究会

日露戦争下の教育 明治三六年頃の学校行事

等

第七節 日露戦争後の教育……………826

義務教育年限の延長 第二期国定教科書

第八節 大正期の教育……………827

市町村義務教育費国庫負担法 「国民精神作

興ニ関スル詔書」発布 勤儉貯蓄の励行 小

学校経営の充実 小学校連絡会と自学自習教

育の研究

第九節 昭和初期の教育……………830

不況下の教育 国民精神総動員 青少年学徒
二賜ハリタル勅語 国民学校令の公布 戦時
版教科書

第二〇節 戦時下の教育……………833

修業年限の短縮 学徒動員 学童の勤労奉仕
食糧事情 戦時下の学校生活 生活用品の欠
乏 学童疎開 本土空襲

第二節 新しい学校制度の発足……………841

終戦直後の教育 新日本の教育方針 軍事教
育の廃止 教員の待遇 学制改革 新憲法と
教育基本法

第二五節 中山町の同和教育……………861

中山町同和教育研究会協議会 同和教育の課
題

第二章 各学校教育の変遷……………864

第一節 幼児教育・保育……………864

第二節 保育園・幼稚園……………867

中山保育園 佐礼谷保育所 永木幼稚園 野
中幼稚園

第三節 小学校……………891

中山小学校 野中小学校(栗田小学校) 永
木小学校 佐礼谷小学校

第三節 新しい教育の発足……………846

新しい教育指導 道德教育の実施 教育委員
会の発足 任命制教育委員会 地教委連絡協
議会 学校における「国旗・国歌」の扱い

第三節 教育行政上の諸問題……………849

勤務評定をめぐる問題 研修会参加をめぐる
問題 全国一斉学力調査をめぐる問題
第二四節 二一世紀をめざす教育改革……………853

昭和四〇～五〇年にみられる教育課題 教育
改革へ向けて 学校週五日制の導入 中山町
の取り組み

第四節 中学校……………976

中山中学校 佐礼谷中学校

第五節 高等学校……………1016

中山高等学校

第三章 社会教育……………1031

第一節 戦前の社会教育……………1031

戦前における社会教育の発足と歩み 若衆組
から青年団へ 処女会から女子青年団へ 勤
労青少年教育の移り変り 愛国婦人会から大
日本婦人会まで 壮年の組織活動

第二節 戦後の社会教育……………1046

戦後の社会教育のあゆみ 公民館の設置と活

動 青年団と青年学級 婦人会と婦人の各種
 学級 老人クラブと高齢者教育 社会体育の
 発展 文化協会の発足としくみ PTAの成
 立と発展

社 巖島神社 燈森三島神社 藤縄の森三島
 神社 永田三島神社 烏帽子杜三島神社

第四章 宗 教

第一章 村落社会の構造

第一節 仏 教……………1088
 沿革 盛景寺 梅原寺 大興寺 誓明寺 浄
 光寺 真光寺 観音堂
 第二節 その他の宗教……………1113
 新宗教 新興宗教 信仰
 第三節 神 道……………1121
 神社の起源 神社沿革 川崎神社 梅坂天神

第一節 村落社会……………1139
 村落社会の構造 相互扶助 村落を支える集
 団
 第二節 地名の意義……………1145
 地名の意義 地名の種類と型 地名の用語
 地名とその由来

第三節 中山町の地名

第三章 労働慣習

中山町小字名 中山町地名(俗称)

第一節 共同作業……………1200

第二章 衣食住の変遷

こうろく 手間換え もやい

第一節 衣生活……………1171

第二節 奉 公……………1202

きもの はきもの かぶりもの 雨具

第四章 年中行事

第二節 食生活……………1181

第一節 従来の中行事……………1204

主食 副食物 ふだんの食事 晴れ食・行事
 食 炊事の施設 搗臼とやぐら臼 水車 碾
 臼と製粉

九月 一〇月 十一月 十二月

第三節 住生活……………1193

第二節 新しい年中行事……………1230

環境と座敷構え かまどといろり 建築工程
 と儀礼 家の中の設備

第五章 人生儀礼

第一節 出産 育児……………1232

第二節 婚姻……………1236

第三節 厄払い 年祝……………1242

第四節 葬 儀……………1243

第六章 民間信仰……………1248

第一節 神社信仰……………1249

日待講 お伊勢講 石鎚講(石鎚信仰) 金

毘羅信仰

第二節 仏教信仰……………1253

大師信仰 小四国 講 荒神信仰 憑物信仰

路傍の神仏 五輪塔

第七章 民話と伝説……………1266

第一節 民話……………1266

第二節 伝説……………1269

自然伝説 信仰伝説 歴史伝説

第八章 子供の生活・わらべ歌……………1277

第一節 子供の遊び……………1277

第二節 わらべ歌……………1278

第九章 民謡……………1283

第十章 俚諺・俗信・方言……………1293

第一節 俚諺……………1293

第二節 俗信……………1297

第三節 方言……………1299

第二章 スポーツと娯楽……………1327

第一節 スポーツの流れ……………1327

第二節 相撲……………1329

第三節 囲碁……………1332

第四節 将棋……………1333

第三章 郷土芸能と文化活動……………1335

第一節 郷土芸能……………1335

神楽芸 村芝居 お供相撲(平沢地区) 万

歳小踊

第二節 文化活動……………1353

俳句 短歌

第三章 文化財……………1384

第一節 愛媛県指定文化財……………1385

菩提樹 石鳥居遺構

第七編 人物……………1401

人物……………1401

年表……………1433

中山町全図……………1444

第二節 中山町指定文化財……………1387

般若心経残欠 薬師如来像 観音像 阿弥陀

如来像

第三節 その他……………1391

中山地区 出淵地区 永木地区 野中地区

佐礼谷地区

編さん後記……………会長 市田勝久…1447

参考文献……………1454

索引……………1463

第一編 自然環境



山村の展望 ……野中一大矢 平成6年2月撮影

第七編
人
物



国鉄内山線開業功労者顕彰碑 J R伊予中山駅横 平成7年8月撮影

武	鷹	鷹	仙	重	小	五	桑	窪	久	城	城	川	奥	奥	大
智	尾	尾	波	兵	西	島	原	中	保	村	戸	崎	村	田	塚
金	吉	寅	雅	衛	平	キ	探	友	一	ス	庄	正	唯	源	節
次	循	太	子	の	内	ヨ	底	吉	雄	ギ	五	藏	治	一	治
郎	郎	妻	(小西金久)	ミ	郎	郎	郎
.....	(七代目)
.....
1416	1415	1414	1413	1412	1411	1410	1409	1408	1407	1406	1405	1404	1403	1402	1401

山	山	森	森	森	妻	松	古	橋	西	中	中	豊	太	玉
本	岡	平	平	井	鳥	本	川	本	宮	丸	岡	谷	森	井
義	茂	萬	苦	曉	萬	ト	友	栄	マ	伝	大	只	浩
雄	栄	左	治	三	太	藏	キ	重	太	キノ	吉	治	衛	三
.....	衛	郎	郎	郎	コ	(月登)	郎	ノ	郎
.....
.....
1431	1430	1428	1427	1426	1425	1423	1423	1422	1421	1420	1420	1418	1417	1416

(五〇音順)